

障害児支援

(あなたは天使!)

「ユー・アー・エンゼル!」運動

「ユー・アー・エンゼル！」 (あなたは天使!)運動

障害児の不安や悩みに取り組み、 御両親を励まし、勇気づける ボランティア運動

幸福の科学では、「障害児の不安や悩みに取り組み、御両親を励まし、勇気づける」障害児支援のボランティア運動も行っています。

なぜならば、幸福の科学では、たとえ肉体に障害があっても、魂は正常であり、人生の目的と使命を持って生まれてくると教えており、この霊的な人生観を多くの方に知っていただくことで、不安や悩みが消え、人生を前向きに生きることができるからです。

障害を持って生きることは、本人にとっても親にとっても、本当に大変なことですが、そんな方々に対して、主エル・カンターレ（大川隆法総裁先生）は、「ユー・アー・エンゼル！」(あなたは天使!)と、伝えられているのです。

この主のメッセージを、多くの方々に伝え、人生に希望を持っていただくことが当活動の目的です。

また、「学生部ともタイアップして社会福祉活動の輪を広げることができるだろう。」と、学生部にも期待されています。

◆ 『障害を持っていても、魂としては完全』

病気にかかっていたり、何らかの障害を持っていたりしても、魂としては完全です。完全な魂を持っています。

障害などを持っていたりすると、試練として、何十年かのあいだ、苦しみがあるかもしれませんし、家族にも迷惑がかかるかもしれません。しかし、あの世へ還ったら、完全な姿に戻ります。

そういう重荷を背負って生きることは、何らかの魂修行に必ずなっているので、障害などをあまり深く考えすぎてはいけません。「魂的に劣っている」という考え方をとるべきではないのです。

実は、そういう重荷を背負いながら、苦闘し、努力している人のなかには、すばらしい光を秘めている人もいます。普通の人よりも、もっと立派な人が、重度の障害を持っていたり、知的障害者のように見えたりすることも、この世にはあるのです。

光の天使たちが、一定の使命を持ち、そういう姿で生まれていることがあります。世の中の人たちを何らかのかたちで教育したり、親に対して教育をしたりする必要があって、そういう姿で出ている場合もあるのです。

したがって、外見だけで判断してはいけません。

◆ 『障害と闘うことは菩薩行でもある』

障害など、いろいろな悪条件を持っている人も多いと思いますが、実は、まわりの人に何かを教えたり、まわりの人の性格を優しくしたりする修行もしているのです。

まわりの人たちは、そういう人から逆に教わっているわけです。(略)

何らかの障害を抱えていることについて、どうか、「これは菩薩行の一部でもあるのだ。本人は大変だけれども、ほかの人を教えているのだ」ということを知っていただきたいと思います。

経典『じょうずな個性の伸ばし方』（幸福の科学出版）

2歳のときに発作をおこし、その後、重度の障害をもった啓介くん。現在高校2年生になった啓介君とママの17年間について、お話を伺いました。

Q1 啓介君が寝たきりの障害をもった時の様子を教えてください。

発作が起きてからの1年は恐怖の時間でした。先が見えない怖さをいつも感じていました。

24時間、つきっきりの状態で、疲れ果て、このまま、この子といっしょに死んでしまおうかと何度も思いました。

ようやく、1年がたったころ、実家の母が、3冊の本を持ってきてくれました。それが、幸福の科学の本でした。

何かを求めるように一気に読みました。そして、気づいたのは、「自分が（この子を）どう受け止めるか、自分がどう変わるかなんだ」ということでした。

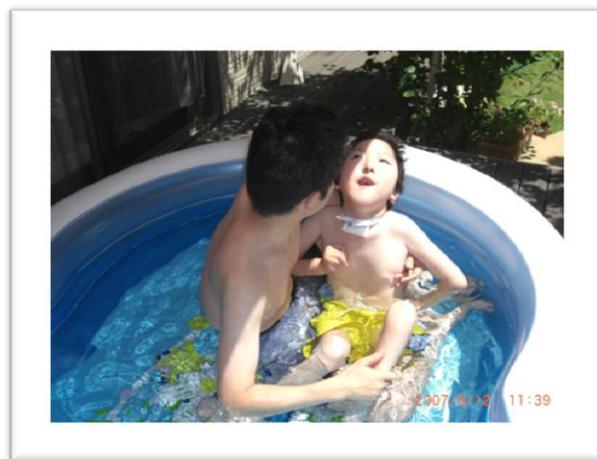
Q2 その後、どのように心境が変わりましたか？

本を読んですぐに、日光精舎の『八正道』研修に参加しました。そのとき、自分が「この子が元気にならないと幸福にはなれない」と思っていることに気づきました。しかし、そんな私に、精舎の講師にこう言われました。

「啓介くんは、主からの贈り物だね」

それから、私は、もっと本を読むようになりました。

これまで自分は、子どもに対して、「私のせいでこんな体になってしまった、かわいそうに」と



「先日、横浜正心館で、親子で研修を受けました。正心館の計らいで、ベッドを研修室にに入れていただきました。」

思っていました、読むうちに、彼が、このような体になることを計画し、覚悟をもって生まれてきたのだということがわかりました。

そして、毎日はまだまだ大変だけど、どんなことがあっても前に進んでいける、もっと幸せになっていけるという実感がわいてきました。

散り散りになっていた心が、穏やかに、平穩になっていきました。それがどんなに幸せだったことか！

啓介の状態は変わりませんでしたが、いつしか、一年間、一度も泣くこともないくらい元気になっていました。

啓介からはたくさんのことをもらいました。寝たきりで、話すこともできませんが、穏やかな笑顔を見るとほっとします。たくさんのことも学びました。信仰も、本当の幸福も、たくさんのことを教えてくれました。



「横浜正心館で、大好きなおばあちゃんと」

以前、講師に言われた「啓介くんは、主からの贈り物だね」ということを、あらためて感じています。

Q3 大川隆法総裁の“ユー・アー・エンゼル！（あなたは天使！）”というメッセージについて

このお言葉には、この子たちに対する慈しみだけでなく、「障害をもった子たちが生まれたことには役割がある、世の中を動かしていく大きな力があるんだよ」といわれたように思いました。

寝たきりであっても、言葉を発することができなくても、この子たちはたくさんの愛を発しています。



大きな覚悟をもって生まれてきて、私たちにいろんなことを教えてくれています。

もし、生まれる前に、「僕と代わってよ」と言われても、私にはできないかもしれません。

本当に大切なものを伝えるために、自分をなげうって生まれてきてくれたのだと思います。

彼らは、決してかわいそうでも、弱きものでもありません。まわりがすべてやってあげているようで、何倍ものものを返してくれています。私たちが忘れがちな心の中の宝物を思い出させてくれているのです。

Q4 啓介君に伝えたいメッセージは？



一番伝えたいのは、「私を母として選んでくれて本当にありがとう」ということです。

啓介の思いを感じ取って、啓介と一緒に、150パーセント、生まれてきた意味、使命を果たしていきたいと思います。

ユー・アー・エンゼルからの手紙

《幸福の科学学園の生徒と、ハンディを持った子供たちとの交流の機会が持たれました。お母様は、参加できなかった啓介君のことを、お手紙にして、伝えられました。》

～学園生への手紙～

啓介は高校2年生。皆さんたちと同じ年代です。身体を自由に動かすことは出来ず、ほとんど寝たきりの状態です。移動の時は抱っこ、もしくは体に合わせて作った座位保持椅子・バギーに乗って移動をします。

お話しはできないので表情で自分の意思を周りに伝えます。そして口から食事を摂ることができないので、胃ろう部分から栄養を注入します。胃ろうというのは手術によって胃に直接穴をあけた部分のことです。

日常生活ですが、家の近くの養護学校に通っています。啓介は医療的なケアがあるのでスクールバスには乗れず、私が車で送迎をしています。

学校には先生の他に4名のナースさん達が在籍していて医療的なケアを行ってくれます。先生も1対1、もしくは1対2で付いてくださいます。その他にも理学療法士の先生、臨床心理士の先生もいてくださいます。

帰宅後は訪問診療のドクター、訪問看護師さん、ヘルパーさんが来てくださって、次男の健康管理・余暇のお手伝いをしてくださいます。入浴は基本的に家族で入っていますが、週に1回のペースで訪問入浴の方にも来ていただいています。

このように啓介の毎日の生活は、たくさんの方々の協力で成り立っています。啓介たち、ハンディを持っている子供たちは、ひとりでは一人前のことは出来ません。何かしら周りの力を借りている、つまり目で見える形としては、私たち周りの者たちがハンディのある子供たちに一方的に愛を与え続けているかのように見えます。



でも、ふと気がつくのです。何かしてあげたい、そう思って彼らと接するのですが、彼らから何倍もの、何十倍もの愛を与えられていることに・・・。
与えているつもりが与えられているのだと いうことを。

啓介、彼らの存在そのものが私たちを原点に戻してくれるのです。忘れかけていた心の奥底に眠っていた心の宝物を思い出させてくれるのです。啓介たちと一緒にいると、自然と優しい気持ちになれる。そして彼らが懸命に生きているその姿、そして彼らの笑みは私たちに勇気を与えてくれます。

「見えない力」そんな不思議な力を啓介たちから感じます。社会的弱者、そう呼ばれる啓介たち障害者ですが、弱き者などではない、「貴き者」なのだとはっきりと分かりました。

啓介は高校2年生、皆さまと同じ世代です。そして今日、お互いが出会いました。

なぜ同じ時代に同じ世代で生まれているのか、今なぜ、皆様と啓介たちが出会ったのか。それは偶然ではなく必然的な意味があると私は感じています。

啓介たちハンディのある子供たちから発せられている愛を感じていただけたら、そう願います。そのことが、きっと皆さまのさらなる発展にも繋がり、そして啓介たちハンディのある子供たちの使命にもつながるものだと信じています。

愛は一方通行ではなく、お互いに与え合うもの。そしてベクトルを変えて色々な方向へと流れていくもの。皆さまと啓介たちは、同時代に生きる同士です。お互いに切磋琢磨し、愛の流れを大きくするべく頑張っていきましょう。

このたびは、本当に素敵な機会をつくっていただきありがとうございました。皆さま方の優しい気持ちに心から感謝いたします。そして皆さまの今後のさらなる活躍をお祈りいたしております。

近い時期に、啓介が皆さまと会えますように。

ユー・アー・エンゼルからの手紙

染色体欠陥で生まれ、いつも生命の危機にさらされながら19年の命を全うした真郷くんの天国からのメッセージです。

中村真郷(まさと)くん、享年19歳、今年3月になくなりました。4P- (4ピーマイナス)症候群、4番染色体長腕欠損と言われ、普通なら生まれてこられない赤ちゃんでした。

昨年、入院した時に、お医者さんが、びっくりしていました。

「成人まで生きているのが、奇跡ですね！真郷くんは希望の星になりますよ。医学的に言っても、びっくりですから☆彡」と言われました。

成長はゆっくりで、3歳になって歩けるようになりましたが、しゃべることは、最後まで、できませんでした。



真郷くんのご両親は、真郷くんが生まれる前から、幸福の科学の会員で信仰を持っていましたので、真郷くんは5歳になるころには、両親を真似て、合掌、礼をするようになりました。ご本尊の前や人に会うたびに、手をあわせ、礼をしていました。

そして、それが真郷くんが唯一自分の意志でできた行動でした。真郷くんの家族は、兄弟が4人いて、子育ても大変でしたが、お母さんも家族も、一度も真郷くんの障害がなければいいと思ったことはありませんでした。家族みんな、楽しく毎日を送っていました。

でも本当は、信仰者でありながら、初めての子が、このような病気で生まれた時、お母さんはすごく落ち込みました。夫婦仲も最悪になりました。

「信仰をしているのにどうして？」と、正直はじめは打ちのめされました。

そして、必ず一番辛い時に限って、真郷くんが気管支炎になり、なんども医者「今が峠です」「1年持ちません」と宣告されました。





子育てが大変で、気持ちの余裕がなくなり、夫婦仲は、悪くなるばかりでしたが、真郷くんを死なせないように育てるのに必死でした。

「真郷が幼くして死なずに生きて、成長してくれたから、私たち家族が今あります。」
1歳くらいで、もし亡くなっていたら、あの頃の私は、気が狂っていたか、離婚していたと思います。

真郷が、頑張ってくれて、時間を与えてくれました。

霊的人生観を知って、魂は健全なんだとわかっていたから、今を受け入れて、前向きになれました。夫婦仲もだんだん修復されて、その後兄弟もできました。

「とても、親孝行で兄弟思いの彼でした。」
と、お母さんは話してくれました。

しかし、今年の2月末ころから、真郷くんは体調をくずし、3月はじめに、静かに息を引き取りました。帰天式で、白衣に身を包まれた真郷くんは、まるで天使が眠りについたように、穏やかで安らかな姿でした。

その帰天式で、真郷くんは挨拶に立ったお母さんを通して、みなさんにメッセージをくれました。

お母さんは、心に浮かぶ言葉をいうにつれて、まるで真郷くんが話しているように感じたと言われました。

そのメッセージをご紹介します。



『あと一年で僕は成人式でした。成人式は家族や友達と、精舎でお祝いをしたかったけれど、それよりも、もっと大切なことをしなければいけなかったので、僕は一足先に帰天しました。

それはこの2012年という年が、日本にとって、大変な大変な年だからです。だから僕はみなさんに今伝えないといけないと思ったんです。伝道したかったんです。



僕はしゃべることができなくて、言葉で伝えることができないから、帰天することで、みなさんに伝道するという道を選びました。エル・カンターレさまのことを知ってほしいのです。2012年という年に、日本が大変になる年に、伝道をしたかったのです。来年ではだめなのです。

僕は障害を持っていましたが、ずっと幸せでした。いつもいつも感謝でいっぱいでした。

みなさんは僕が合掌して礼をするのをみて、真似ているだけだろうとか、意味がわかってないんだろうとか、思われていたと思いますが、僕は、毎回、人に会うたびに、みなさんの仏性に、手をあわせていました。みなさんの幸せを祈って、感謝していました。

すべてに感謝していました。

僕は、これで今世の人生を終えましたが、今は自由に動き、元気いっぱいです。僕には、次にやることもあります。お母さん、悲しまないでください。あの時、すぐに病院につれていってあげれば、まだ生きていられたのにと、悔やまないでください。だって僕はこんなに体は楽で元気なんですから。』

奇しくも真郷くんが亡くなった3月、この「ユー・アー・エンゼル！」運動がスタートしました。

真郷くんのメッセージを知って、この運動は、単に障害児を支援するだけの活動ではないと思いました。

「ユー・アー・エンゼル！（あなたは天使！）」という 主のメッセージを受け取った方が天使として使命を果たしていく菩薩の運動だと確信します。

そして、主からいただいたこのメッセージを、世界の果てまでも伝えていきたいと思います。

「ユー・アー・エンゼル！」(あなたは天使!)運動では、主に以下の3点の活動を展開しています。



**「ユー・アー・エンゼル！」
(あなたは天使!)運動**

- **集いの開催** ……
障害児の方とその保護者の方が参加できます。
- **障害児と家族の悩み相談** ……
面談や電話、メールなどで随時相談可能。
- **ボランティア、支援者づくり** ……
学習会などを開催。

①集いの開催

お子様と保護者向けにプログラムがあり、主の愛と光を感じていただけます。

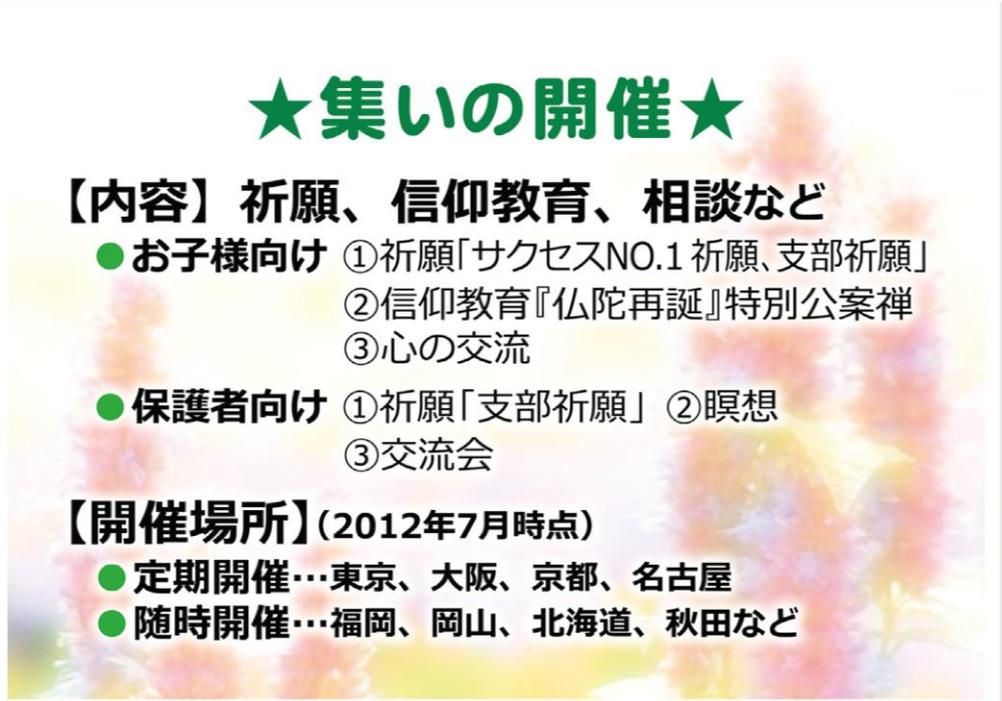
特に、祈願を重ねて受けられている生徒の中には、「てんかんの波形が消えた。」

「字を書くことができなかつたのに、書き始めた。」

「じっとしていられないタイプなのに、真剣に学べるようになった。」など、

子供の成長に信仰教育が大きく影響していることが分かります。

また、祈願、信仰教育共に、ボランティアが寄り添いフォローしますので、どなたでもご安心して参加ができます。



★集いの開催★

【内容】祈願、信仰教育、相談など

- **お子様向け** ①祈願「サクセスNO.1 祈願、支部祈願」
②信仰教育『仏陀再誕』特別公案禅
③心の交流
- **保護者向け** ①祈願「支部祈願」 ②瞑想
③交流会

【開催場所】(2012年7月時点)

- **定期開催**…東京、大阪、京都、名古屋
- **随時開催**…福岡、岡山、北海道、秋田など

②悩み相談

障害児を育てられた先輩ママや、専門家ボランティアなどに、子育ての日頃の悩みを相談できます。

③ボランティア、支援者づくり

ボランティア体制の整った地域には、定期的に学習会を行い、菩薩行としてのボランティアに貢献していただけるように、支援を行っております。

**「ユー・アー・エンゼル！」(あなたは天使！)運動を通して、
多くの感動が広がっています。
この運動の主役は、あなたです！**

この運動は、ボランティア運動なので、多くの皆さまのご協力を通して、全国的に拡げていきたいと思っています。

また、当活動は、皆様の善意ある植福（布施）によって支えられています。

当活動にご賛同をいただき、

**「障害児やご家族に、主の愛、希望、感動を広げたい！」と思われる方は、
植福（布施）にて、ご支援をいただければ幸いです。**

植福は、活動資金として、特に以下の目的に、大切にに使わせていただきます。

●「ユー・アー・エンゼル！」の活動拠点の拡大

東京（2012年現在）のみならず、段階に応じて、全国に活動拠点を増やし、支援を広げます。

●集い、合宿などを通して、宗教的感動を広げます

「ユー・アー・エンゼル！の集い」「合宿」などを定期開催し、感動体験をされる方を増やします。

☆植福は、下記の口座にて、銀行振込で受け付けております。

皆様の心からのご支援、植福をお待ち申し上げます。

《植福のご案内》

**【振込先】 三菱東京UFJ銀行 東京営業部（321）
（普） 0418847
（口座名義） 宗教法人 幸福の科学**

まずは、以下のアドレスに「メール登録希望」と
(行事のご案内を送らせていただきます)

ユーアーエンゼル！運動メール登録
you-are-angel@happy-science.org

【連絡先】

宗教教育企画局 ネバー・マインド

(担当：富澤・諏訪・木全^{きまた})

〒142-0041 東京都品川区戸越 1-8-2

you-are-angel@happy-science.org

TEL 03-3787-6187

FAX 03-3787-7847

お気軽にお問い合わせください。